

保護活動



(右) 民家近くの植林で、サンコウチョウの子育て行動を調べました。特徴的な鳴き声で、生息場所は意外と確定しやすい種類です。

(下) 養沢の深い森で、小さな洞から顔を出してきたオオコノハズク。中で育っている雛が心配なのか警戒していました。偶然でしたが、お邪魔してしまいました。



雨に打たれながら、目的地に向かっていました。途中の集落で、協働の森づくり活動で大変お世話になっていた方に偶然出会い、少しお話ししました。「こんな雨の中でも、頑張っていますね。自分も頑張らなきゃ」と思いながら、雨が苦手な私は歩くペースを上げました。

実は、この季節は気になる動物の若い命が多く、それらを確認するために森に出かけるが増えます。田んぼの水に浮かぶトウキョウダルマガエルや、池などの上の枝で鳴くモリアオガエルの繁殖の季節です。でも、両生類だけではなく、鳥類の子育ての季節でもあります。

この記事で紹介する鳥類は、あきる野の貴重な種類の一部です。非常に美しい鳴声で、あきる野の夏の森に生息するオオルリやサンコウチョウ。市内で数箇所の繁殖場所しかないオオタカやオオコノハズク。また、東京都内で数箇所の営巣地しか確認されていないサシバ。これらのヒナや巣などの様子を皆さんに見せたいと思いました。これら重要な命は、あきる野の豊かな自然が育てている生き物です。そして、この様な貴重な鳥類の保護に協力してくれている森林組合さんや、今まで自然保護活動で協力して下さった方々にお礼と感謝のメッセージを送りたいと思います。見る目と、組む手、そして知るや知らせることで、あきる野の自然の素晴らしさを守ることができると思っています。

外来種の捕獲活動や、ピオトープの整備なども行っている私は、あきる野の自然保護に最も繋がる活動はよく調べることでと感じています。



斜面などの木の根っこでよく巣を作るオオルリの四匹のヒナの様子です。覗いてみたら、ヒナたちは私を親と勘違いし、同時に上向きで口を開けて餌を求めました。

(上) 何年間も使ってきている分厚い巣の中で、オスが餌を持ってきてくれるのを待つオオタカの子メスとヒナの様子です。私はかなり遠くで隠れても、警戒されました。さすが猛禽類の目です。確認と観察を数分で済ませてから、すぐに離れました。



(下) 産まれてから10日間も経っていないと思われるサシバのヒナが、親がくれたアオダイショウの下半身を飲み込んでいる瞬間を見ることができました。猛禽類と深い絆を持っている私はなぜか、このサシバらしい様子を見て涙が零れそうになりました。



[パブロ]



森っこサンちゃん

第3期 森の子コレンジャーの一日(6月)

6月の活動は、植物・昆虫、野鳥・両生類、森、野生動物(痕跡)の4班に分かれて調査を行いました。班ごとの活動内容は、担当するレンジャーの専門と個性で決まります。自然も色々、人も色々です。

植物と昆虫の切っても切れない関係、長い時間じっと待つ野鳥観察、森の成り立ちを知る森歩き、痕跡から生息する野生動物を推理するなど、班ごとに学びは違いました。約4時間の森活動の後は、野帳に記録した動植物を図鑑を使って調べ、一人ひとりが活動報告書にまとめました。最後は体験したことをみんなで話し合い、共有しました。コレンジャーそれぞれの視点から学ぶ“バラバラな自然”が、正しく自然のように“つながる”日が来るのでしょうか。楽しみです！

その後、1年間自分の家で面倒を見るクヌギの苗木をポットに植え替えました。

このクヌギは、「自然を昔に戻す会」が実生から育てた苗木です。冬にたまたま、どんぐりの苗床作りをお手伝いしたこともあって、コレンジャーに20苗ください！

とお願いすると「持ってけよーう！」とってくださいました。

コレンジャーに戻す会の活動や森のことなど、貴重なお話をしていただいた岡部さん。

ありがとうございました！ 次回の活動は8月です♪



(加瀬澤)

コレンジャーが調査中に撮影した自然(一部)です



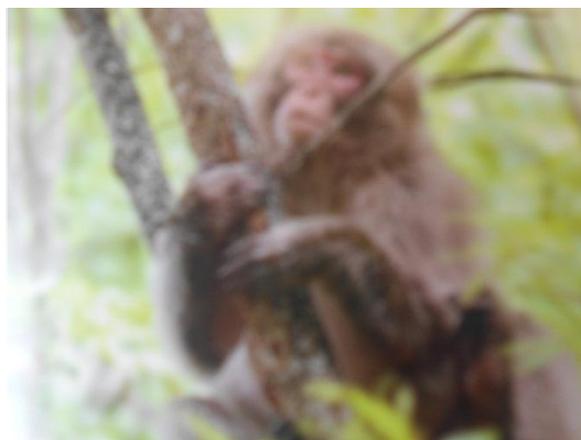
ひなご撮影(ベニボタル)



けーけ撮影(スギ)



けいたろう撮影
(キツツキがあけた穴)



りな撮影(ニホンザル)

“学んだこと、感想” - コレンジャーの活動報告書から抜粋 -

「植物・昆虫班(ももか)・・・雄花→花粉(風、虫、鳥)→雌花→実→たね→木→花→雄花・・・」

「森班(ゆりか)・・・エビネがまだ森に生えていて改めて森の環境を守っていかうと思った」

「野生動物(痕跡)班(しょうご)・・・フンを見ると、サルやテンはニガイチゴやヤマザクラの実を食べていた」

「野鳥・両生類班(けいたろう)・・・野鳥や生物を観察することは、とても大変だった」